

文化・芸術

「女」

1905年、油彩、カンバス
14.0cm×13.2cm Mコレクシヨン

ヒエール・オーギュスト・ルノワール (1841~1919年)

フランス近代絵画の巨匠ルノワールの小さな作品です。1905年、通りの一角や女性像のクローズアップ習作とともに、パリで描かれた一点と伝わります。

血色のよい頬、なめらかな首、巻き上げられた髪に木漏れ日が降り注いでいるのでしょうか。チュニックのようなひだのある着衣は透けるように青く揺らめいています。

このころのルノワールはリウマチによる関節炎がひどくなり、制作に困難を伴うほどになっていました。05年の冬には、パリを離れ、南仏の温かな気候を求め滞在するようになりました。この時代以後、晩年期のルノワールは彼の生活の周辺の親しい人たちをモデルとし、素早い筆致と暖色によってポリユームの探求を続けました。

生涯「光を吸いこむ肌」を愛したルノワール。気取りのない素朴さを持つモデルの生気が、小さな画面に満ちています。(小此木)



名画の扉

大川美術館企画展から